

吉岡博人先生の御逝去を悼む

酒井シヅ

本学会の名誉会員、東京女子医科大学名誉学長吉岡博人先生は去る平成三年八月六日に永眠された。八月八日の東京女子医大弥生講堂での密葬に続いて、同年九月二十一日（土）に東京青山斎場で東京女子医科大学大学葬が厳かにかつ盛大に執り行われた。享年は八十八。

先生は明治三十五年（一九〇二）九月二十六日に東京女子医科大学創設者吉岡荒太、弥生の長男として新宿区市ヶ谷中之町に生まれた。場所は女子医大の前身東京女医学校の所在地である。時は六畳一間で東京女医学校が始まってから二年しか経たず、学生数も少なく、その将来が弥生先生の一挙手一動にかかっていた時代である。弥生先生が自らの出産を教

育に役立てることを思い立ったことで、学生の見守る中で、博人先生が誕生

されたというエピソードがある。生まれながらにして女子医大の教育に与った先生は文字どおり東京女子医大の経営者になるべく育てられ、自らもそれを自覚しておられた。その結果は、超一流のセンター方式の総合病院を持つ医科大学となつて現われたのである。従つて先生の一生を語ることは、東京女子医科大学の栄光の歴史の大半を語ることになる。

先生は昭和十二年（一九三七）東京大学医学部を卒業されると、直ちに母校の衛生学教室に入られ、昭和十四年にロックフェラー財団の医学研究生と



吉岡博人名誉会員

なられて、ジョンズ・ホプキンス大学へ留学された。ついで弥生先生の海外視察について欧米を廻るなど、当時の日本の若い一医学者はとても得られない国際交流のチャンスに恵まれた。先生の若い頃を知る人々は、後年の先生が見せた学長、ならびに理事長としての手腕に驚き、異口同音にこんなにはできる人とは思わなかったという。

先生の医科大学の経営者としてのセンスは、戦前の海外の経験と衛生学者としての学問的素養などに加えて、弥生先生の一見、甘いと思われたが、博人先生にたたき込まれた愛情、それと弥生先生から受け継がれた女子教育の向上に対する悲願、公職追放後、女子医大に降り懸かった最大の危機を乗り越えた経験によって育てられたものといえよう。

アメリカから帰国後、先生は直ちに東京女子医学専門学校の衛生学の教授となられ、衛生統計など新しい分野を開かれた。戦後、アメリカ占領軍が公衆衛生学教育の必要を説き、各大学に公衆衛生教室を置かせたとき、女子医大では既に衛生学教室の名前のもとに公衆衛生学を行っているといつて、公衆衛生教室を置かせなかつた経緯がある。博人先生のこうと確信したら、何物にも動かされない性格の一端がここに見られたのであつた。

先生と医学史とのかかわりはかなり古い。最初に先生の名前が出てくるのは昭和七年の『中外医事新報』一一八〇号である（九八〜九九）。例会で「荻野吟子伝」について語られたのであつた。先生はまた女子医大の同窓会誌『至誠会』にアメリカ最初の女医ブラックウェルの自伝を翻訳しておられる。このようにその頃まだほとんど知られていなかった海外の女医の歴史を女子医専の学生に紹介されたのである。先生が女医史を明らかにしようとされたのは趣味や個人的な興味からではなかつた。東京女子医専の学生に精神的支援をしようとされたからである。一般に医史学に興味を持つ人は年をとってからの例が多いが、それと全く違つていた。晩年の先生はほとんど医史学の仕事をされることはなかつた。しかし、先生は医史学会の会員としていつも医史学を見守つて下さつた。そのことは先生の命令で『東京女子医科大学八〇年史』をつくることで、しばしばお目にかかる機会があつた筆者に示された好意から感じたところであつた。

略 歴

明治35年9月26日

昭和4年6月

昭和4年6月

昭和11年9月

昭和12年4月

昭和12年8月

昭和14年4月

昭和36年4月

昭和37年4月

昭和37年12月

昭和38年1月

昭和40年5月

昭和40年5月

昭和42年6月

昭和43年4月

昭和44年4月

昭和52年2月

昭和52年11月

昭和56年4月

昭和58年4月

昭和60年5月

吉岡荒太・彌生の長男として新宿区市谷仲之町に生まれる

東京帝国大学医学部卒業

東京帝国大学医学部衛生学教室入局

医学博士の学位を取得

私立東京女子医学専門学校（現在の東京女子医科大学）教授

文部省在外研究員・ロックフェラー財団特薦医学研究生として米国ジョンズ・ホプキンス大学へ留学（14年10月帰国）

財団法人東京女子医学専門学校（現在の学校法人東京女子医科大学）理事

〔文部省私立大学研究設備審議会第四部長

第32回日本衛生学会会長

財団法人九段精華財団理事長

日本学術会議会員

学校法人東京女子医科大学理事長

東京女子医科大学学長

財団法人日本心臓血圧研究振興会理事長

東京女子医科大学名誉教授

東京女子医科大学看護短期大学学長

社団法人日本私立大学連盟理事

勲二等瑞宝章受章

社団法人日本私立医科大学協会会長

東京女子医科大学名誉学長

日本経営者団体連盟常任理事

昭和60年11月

平成2年5月

平成3年8月6日

平成3年8月6日

勲二等旭日重光章受章

学校法人東京女子医科大学名誉理事長

永眠（享年88歳）

特旨をもって正四位に叙せられる（追賜）

（順天堂大学医史学研究室）